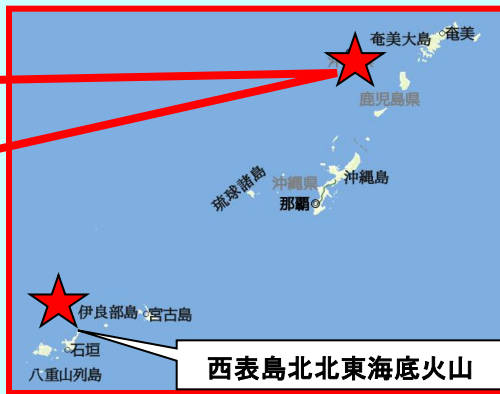


「沖縄気象台と第十一管区海上保安本部との火山防災に係る連携強化の協定」 協定書調印式開催について



硫黄鳥島火山



西表島北北東海底火山

平成23年8月26日
第十一管区海上保安本部



日時： 8月30日（火曜日）15：00～16：00（約1時間）

場所： 第十一管区海上保安本部 5階共用会議室

協定書調印者： 沖縄気象台長
第十一管区海上保安本部長

協定目的： 沖縄気象台と十一本部は、硫黄鳥島火山及び西表島北北東海底火山に関する情報の早期伝達、共有等の更なる連携の強化を図り、火山災害の予防及び軽減に資することを目的とした協定を結びます。

協定内容： 海上保安庁では、火山島や海底火山構造等の調査及び火山の状況の監視を実施し、火山噴火予知連絡会等への報告を通じて、関係省庁と情報共有しています。
同協定締結によって、十一本部から沖縄気象台への画像の直接提供、異常を認めた場合における十一本部航空機に沖縄気象台職員が同乗した火山観測が文書で明示されることとなり、十一本部と沖縄気象台との間で火山防災に係る連携が強化されることとなります。

出席者： 沖縄気象台長及び第十一管区海上保安本部長等

取材を希望される方は、8月30日（火曜日）1450までに
第十一管区海上保安本部5階共用会議室にお越しください。

問い合わせ先

救難課長
海洋情報監理課長
TEL098-867-0118

望月 成慶
米須 清
内線 3250(救難課)
内線 2510(海洋情報監理課)

那覇基地MA721による硫黄鳥島海域火山調査

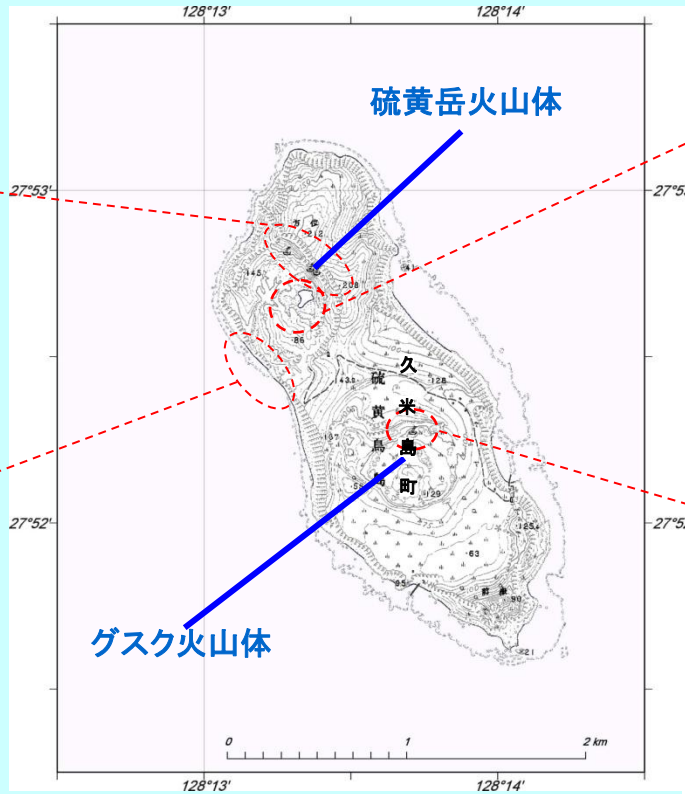


火口内側壁の噴気箇所、水蒸気



火口南西海岸からの変色水なし
2006/06/24黄緑色の変色水が確認されている

徳之島西方約65kmにあり、南部のグスク火山体と北部の硫黄岳火山体の2個の火山が接合した周囲約8kmの火山島を成す。グスク火山体は二重の成層火山の外輪山であり、中央火口丘として扁平な溶岩円頂丘がある。周囲に爆発火口跡があり、かすかに噴気がある。硫黄岳火山体は火口をもつ成層火山体である。岩石は複輝石安山岩。今も硫黄の噴出がある。有史以後の噴火は全て爆発型で溶岩を流出したことはない。1959年の噴火で無人島になる。



硫黄岳火口中央の陥没孔の噴気、水蒸気周辺の水溜りからの水蒸気



島中央部グスク火山北壁の噴気、水蒸気

| | |
|------------------|-------------------------------------|
| 1664年(寛文4年) | 噴火。地震、死者あり。 |
| 1903年(明治36年)3~8月 | 噴火。噴石、全島民が一時久米島に移住。 |
| 1959年(昭和34年) | 噴火。活動が1か月続き、泥、硫黄が海に流出。全島民86人は島外に移住。 |
| 1968年(昭和43年)7月 | 噴火。 |

西表島北北東海底火山について

1924年10月31日海底噴火に伴い多量の軽石が黒潮にのって漂流し日本各地の海岸に漂着した。
1991年1月に付近海域等で群発地震が発生した。